

2019/09/01

「弟子たちに与えたパンと杯」
マタイの福音書26章26節から30節

中村寿夫

はじめに

今朝は、礼拝の中で、聖餐式が行われます。聖餐式の意味をあらためて考えましょう。

神様は、「みことば」によって、私たちにご自身を明らかにし、その恵みと祝福をお与えになります。

「みことば」は「神の書かれたみことばである聖書」と、「目に見える形で伝えられるみことばである聖礼典に」よって、伝えられます。

今朝は、この「見える形で伝えられるみことばである聖礼典」について学びましょう。

1. 新約時代の聖礼典

教会は、旧約時代と新約時代に分かれます。イエス様がお出でになってからの新約時代では、「洗礼」「聖餐」が聖礼典です。

(1) 洗礼

旧約時代は、「割礼」が行われました。これは、男性だけに行われたもので、「神の民としてのしるし」でした。

新約時代は、これに代わる「洗礼」行われましたが、これは男性にも女性にも行われました。洗礼は「水」が用いられますが、これは「聖別」、つまり、「神の民となるしるし」です。

洗礼は、イエス・キリストを信じたときに、「神の民として聖別されたしるしとして」行われます。

(2) 聖餐

旧約時代に、神の民はイスラエルは、一時エジプトで奴隷となっていました。神はモーセという指導者をお立てになり、彼らをエジプトから救い出してくださいました。それを記念して、「過ぎ越しの祭り」が行われるようになり、それが守られて来ました。

エジプトを出たイスラエルは40年間、荒野での生活をしますが、そのとき神は「天からマナ」を降らせて彼らを養ってくださいました。イエス様は、その例になぞらえ、「わたしがいのちのパンです」と言われました。

さて、イエス様は、この「過ぎ越しの祭り」の時に、弟子たちと最

後の 晩餐をし、その席で「聖餐」を行いました。イエス様は、「パン」と「ぶどう酒」をお与えになったのです。それが最初の「聖餐式」でした。

初代教会では「週の初めの日に、私たちはパンを裂くために集まった」（使徒20:7）とあるように、聖餐式が守られました。

2 パンとぶどう酒の意味

(1) パン：わたしのからだ

主イエスは、「パンを裂き、弟子たちに与え、『これはわたしのからだです』」と言われました。パンは「裂かれたパン」は、十字架で裂かれた「キリストのからだ」を表しています。

(2) ぶどう酒：わたしの契約の血

次に主イエスは、杯を取り、「みな、この杯から飲みなさい。これはわたしの契約の血です。これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です」と言われました。ぶどう酒は、「十字架で流されたキリストの血」を表しています。

3 聖餐式における聖霊の働き

カトリック教会は、パンとぶどう酒をを「キリストの現存する聖体」とであると教えます。「キリストの制定のことばに従って、パンとぶどう酒はキリストの御からだと血に変化します。聖体には、イエズス・キリストの御からだと御血とともに、その霊魂も、神性とともに実在します。なお、パンとぶどう酒のそれぞれどちらの形態ともにキリストは現存しておられます」（カトリック要理108）。

長老教会では、パンとぶどう酒を「キリストの現存する聖体」とは教えません。パンはパンであり、ぶどう酒はぶどう酒です。しかし、単なる記念の儀式に過ぎないかということ、そうではありません。ここに聖霊のお働きがあります。聖霊によって霊的にキリストのいのちにあずかり、霊的にキリストと交わりにあずかるのです。

4 聖餐式にあずかるときの恵みと祝福

聖餐式にあずかるとき、私たちはどのような恵みと祝福をうけるでしょうか。

聖霊の働きによって、私たちは、

(1) キリストの救いを確信します。

聖餐式で示されるのは、キリストの十字架による贖い、救いです。ですから、これにあずかるとき、私たちは、自分がキリストによって救われていることを確信するのです。

(2) キリストのいのちによって養われていることを確信します。

パンを食べ、ぶどう酒を飲むことによって、真の糧であるキリストのいのちによって自分が養われていることを確信します。

(3) 自分がキリストのからだである教会の一員であることを確信します。

私たちは、同じパンとぶどう酒にあずかる兄弟姉妹であり、キリストのからだである教会の一員であることを確信するのです。

(4) キリストの死を宣べ伝えます (I コリント 11:26)。

聖餐式にあずかることによって、私たちは、キリストの死を人々に伝え、自分がキリスト者であることをあかししているのです。

(5) キリストの再臨を思い、それを待ち望みます。

「主が来られるまで」というみことばから、主の再臨を待ち望みます。

5 聖餐式に臨むときの心構え (I コリント 11:27-28)

パウロは、「もし、ふさわしくない仕方でパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだと血に対して罪を犯すことになります。だれでも自分自身を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい」と命じています。

「ふさわしくない仕方で」とは、聖餐式の意味をわきまえずに受けてはいけないということです。ですから、未信者は聖餐式にふさわしくありません。

「自分自身を吟味して」とは、「罪を悔い改め、キリストへの信仰と服従を確認して」ということです。

適用： 私たちが弱いからこそ、主は聖餐式を定め、目に見える形で福音を示し、信仰を強めてくださいます。自分は信者であるが、信仰も日々の生活

もなっていない。だから、ふさわしくないので聖餐をとという人がいたら、それは間違っています。なぜなら、その人は、どのようにして、自分をふさわし者にすることが出来るのでしょうか。努力すれば、なれますか。ふさわしくないから、キリストの十字架の赦しが必要なのではありませんか。

例話：イエス様は、弟子たちの足を洗われたことがありました。ペテロの番になったとき、彼は「決して私の足を洗わないでください」と言いました。するとイエス様は「わたしが洗わなければ、あなたはわたしと関係ないこととなります」と言われました（ヨハネ13:5-8）

ですから、信仰者は「ふさわしくない自分が主の十字架によって赦され、神のものとされていることに感謝して」聖餐を受けるのです。

結論

キリストの福音の中心は、十字架と復活です。それを私たちの心に刻むために、主は聖餐にあずかるように勧めてくださいました。

パンと杯にあずかるとき、聖霊の働きによって、キリストの救いと、いのちと、教会を私たちに確信させ、キリストの死をあかしする恵みと祝福を与えられ、さらに主が再びおいでくださるのを待ち望ませてくださいます。感謝しつつ今朝の聖餐に臨みましょう。

イエス・キリストを救い主としてまだ受け入れていない人への勧め

あなたは、今日までイエス様を知らなかったかもしれませんが。しかし、イエス様はあなたを知っておられます。今日、今、イエス様のところに帰っていらっしゃい。イエス様はそれを望んでおられます。

「見よ。わたしは戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」（黙示録3:20）

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

（使徒の働き16:31）

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」（ヨハネ3:16）

イエス様を信じて洗礼を受けたら、聖餐にあずかることができます。